

2025 年度業務実績報告書

提出日 令和8 年1月 16日

1. 職名・氏名 助教・木下 峻一

2. 学位 学位 博士（理学）、専門分野 地球科学、授与機関 東北大学、授与年 令和元年

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
②内容・ねらい
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
(2)その他の教育活動
内容

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	【 本】
②学術論文（査読あり）	【 本】
③その他論文（査読なし）	【 本】
④学会発表等	
* 1. Analysis of the relationship between planktic foraminiferal fossils and palaeoenvironmental parameters using micro X-ray CT. Japan Geoscience Union Meeting 2025, 2025 年 5 月, Shunichi Kinoshita, Azumi Kuroyanagi, Masafumi Murayama, Yurika Ujiie, Hodaka Kawahata. 2. Faculty of Dinosaur Paleontology, Fukui Prefectural University: a New Hub for Dinosaur Paleontology Education and Research in Japan. The 6th International Symposium on Asian Dinosaurs, 2025 年 9 月, Nishi, H., Kamiya, T., Ando, H., Noriki, S., Oishi, Y., Kawabe, S., Shibata, M., Takata, H., Tsuchiya, M., Imai, T., Nakamura, H., Hattori, S., Oyama, N., and Kinoshita, S. * 3. 酸性化環境下における大型底生有孔虫 <i>Amphisorus kudakajimensis</i> の石灰化応答とアルカリ度の役割. 第 11 回地球環境史学会年会, 2025 年 12 月, 木下峻一, 黒柳あずみ, 鈴木淳.	
	【3 件】
⑤その他の公表実績	【 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
【学外】 1. 科研費・若手研究. 代表者. 古環境復元のための大型底生有孔虫の環境応答の定量計測と指標化 (25K17504, 2025.4～2030.3) 2. 科研費・学術変革領域研究 (A). 分担者 (代表者: 久保田好美). 地球史から紐解く pH ストレス応答機構. (25H01333, 2025.4～2030.3) 3. 科研費・基盤研究 (B). 分担者 (代表者: 黒柳あずみ). 将来の海洋酸性化が全球の炭素循環に及ぼす影響の検証. (23K25980, 2024.4～2028.3) 【学内】 1. ステップアップ研究支援 (R7 年度個人研究推進支援). 福井県沿岸域に生息する大型底生有孔虫の分布調査と飼育実験手法の開発.	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	

1. 実行委員会作業部会員 (The 6th International Symposium on Asian Dinosaurs, 2025 年 9 月 25 日～9 月 30 日)
 2. セッション座長 (レギュラーセッション **【R5-R8】**, 第 11 回地球環境史学会年会, 2025 年 11 月 30 日)
-

5. 地域・社会貢献活動

1. 公開講座・新知創造学際ハブ 第6回研究会「かたちを科学する：デジタルがつなぐ考古学・自然史・材料科学」（福井県立大学永平寺キャンパス，福井県立恐竜博物館．企画・準備，2025年10月15、16日開催）
2. 福井県立恐竜博物館オープンラボ展示の作成および展示作業（展示期間：2025年9月～現在）

6. 大学運営への参画

(1)補職

(2)委員会・チーム活動

(3)学内行事への参加

恐竜学部新入生歓迎セレモニー，オープンキャンパス

(4)その他、自発的活動など